

**みやぎNPO夢ファンド(B)スタートアップ支援プログラム  
平成18年度助成事業 最終報告書**

書式 4

平成19年 4月27日

団体名	まち遺産ネット仙台
事業名	市民活用保存の観点から見た歴史的建造物マップの作成
連絡担当者お名前(ふりがな)	大沼 正寛(おおぬま まさひろ)
担当者 電話	022-233-3152
F A X	022-233-3325
E-Mail	<a href="mailto:num@ept.tbgu.ac.jp">num@ept.tbgu.ac.jp</a>
助成金を使って行った事業について、ご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)	
<p>本団体は、主に仙台市街および周辺において、失われつつある歴史的建造物・工作物・庭園・樹木などの有形遺産や、技術・伝承といった無形遺産(以下「まち遺産」と総称する)を対象に、ひろく市民の協同によって情報の収集を行い、活用・保存・再生の道を探ることを目的とする市民グループである。</p> <p>当会のスタートアップにかかる具体的作業として、発足間もない現状における具体的方策として、まずは「市民活用保存」の観点から、「どのようなまち遺産がどれくらいあるのか」を明らかにすべく、「歴史的建造物マップの作成」を行うこととし、本助成をいただく運びとなった。助成金当選後の主な活動は以下のとおりである。</p> <p>1) 定例会の開催(月1~2回程度、2月までに18回開催) 通常はエルソーラ仙台を会場とする。定例会では、事業を遂行するための具体的な活動内容および計画について話し合い、活動ごとに役割分担し準備を進めた。</p> <p>2) まち遺産の収集を目的とした調査(5月~11月) 会員は仙台市内の地域を分担し、まち遺産となりうる物件の収集・写真撮影等を行った。定例会では随時それらの情報を持ち寄り、情報の交換と集積(データベースづくり)を行った。</p> <p>3) 第1回まち歩きツアー(南鍛冶町、河原町)10/22 活動計画に基づいてまち歩きツアーを開催(まち遺産の調査を含む)。計40名程の市民が参加し、まち遺産に触れ、所有者のお話などを聞くことが出来た。また本会のメンバーに加わる賛同者も現れ、それらを「まち遺産通信」というミニコミ紙にまとめた。河北新報などでも採り上げられた(調査旅費、調査物品・消耗品、会場費、郵送費を使用)。</p> <p>4) 第2回まち歩きツアー(八幡町)11/23 第2回まち歩きツアーを開催(まち遺産の調査を含む)。計65名程の市民が参加。市民の関心の高さを改めて知った。その後仙台市街の内外にかかるまち遺産情報が寄せられた(調査旅費、調査物品・消耗品、郵送費を使用)。</p>	

助成金を使って行った事業について、ご記入ください。(続き)

5) ホームページの制作

以上をもとに、まち遺産情報をリスト化し、マップ作成の準備を行い、さらなる情報交換のツールにもなるホームページの制作をすすめた(ホームページ制作料を使用)。

<http://machi-isan.cocolog-nifty.com/blog/>

6) まち遺産データベース、マップの作成

以上、メンバーによる個別調査活動、まち遺産ツアー・コレクションの結果などをもとに、まち遺産のデータベースおよびマップ作成をすすめ、成果物として仕上げた(マップ印刷費、郵送費を使用)。

7) 広報チラシの作製

以上の活動により、市民団体としての活動が明確化できたことから、当会の活動を紹介する広報チラシを制作した(広報チラシ作製費、郵送費を使用)。

8) 報告書の作成

助成金による活動内容を報告書にまとめ、関係者への返礼、報告に用いるものとした(報告書印刷費、郵送費を使用)。

以上本事業では、「マップの作成」と、これに先立つ「団体立ち上げに必要な基礎的活動」を並行してすすめることで、今後の活動の重要な基盤を構築することができた。

なお、参考として当団体が2006年度に行った本事業以外の主な活動を以下に記す。

都市ビジョン会議への提言 12/8

仙台市が意見募集をしていたことから、一連の活動内容を提言として提出した。

まち遺産特定物件の実測調査 12/16

第1回ツアーでお世話になった古建築所有者の方のご好意で、実測調査が実現した。メンバー有志を中心に、歴史的価値解明のための基礎的調査を行った。

まち遺産個別の緊急保存活用対策の検討 12月~1月

現在、存亡の危機に瀕したまち遺産の情報が1件寄せられている(若林区南鍛冶町/M筆笥店)。これに可能な範囲で対応するため、情報収集・発信において、必要な行動とは何かを検討してきた。本件については、引き続き対応していく。

まち遺産フォーラムの開催 3/10

これまでの成果を市民に呼びかけ、意見交換を目的とした「まち遺産フォーラム」を3/10(土)に開催した。市民活動サポートセンター6階セミナーホールを会場とし、計70名程の市民の参加を得た。マップを中心に、これまでの成果を報告し、同時に更なる情報募集も呼びかけた。なお、当日成果物であるマップや報告書を販売し予算同等以上の資金を確保したが、フォーラムそのものの運営費は、本事業とは別会計とした。

今回の事業によって、団体の活動や地域社会にどのような成果・効果がありましたか。

本事業で2度開催したまち遺産ツアーでは、初回参加者が45名程度、2回目は70名程度と、市民の潜在的な関心の高さを伺わせた。

また、活動の折々に新聞各社で採上げていただくことも少なくなく、本団体がある関心層に認知されはじめてきたことを示すものといえよう。

本団体としては、同じ志を分かち合うのみの段階から、ともに行動する段階へと前進することができ、助成金を頂いているというある種の緊張感は、活動に計画性を付与する効果があった。メンバーも老若男女と多彩な顔ぶれであり、プログラムを粛々と進めるもの、広報やデザインに意欲をみせるもの、歴史的検証を得意とするものなど、各々の個性が適切に組み合わせられ、充実した活動をさせて頂いている。そして地域社会に対しては、メンバーの予測をはるかに上回る賛同者の出現を得、活動の意義と効果を自覚することができた。

本事業の成果物であるマップは、まだ完全とは言えないかもしれないが、このような仙台南内広範囲を対象とした歴史資源マップはこれまで存在しなかったもので、まち遺産ツアー等といった作成の過程も含め、市民のまち遺産に対する意識高揚を促す効果は少なくないと自負している。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。

また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか。

一つは、仙台市域が広すぎるという事実。まち遺産を育む「まちづくりスケール」に対して、実際の都市計画は広域スケールで構想されていて、他都市に比べまち遺産を顧みない一つの要因となっている。

本団体が市域全てのまち遺産を守るという錯誤は非現実的で、従来の町内会スケールごとに保存活用の種を植込み、連携をとるスタイルが現実的である。その意味では、「ひろく浅く」情報を整理する「まち遺産マップ」の作成だけではなく、「狭く深く」、個別のまち遺産やまちに立脚して、その保存活用活動を行う必要性も感じている。

そのためには、例えば「まち遺産活用実践事例」として実際に「まち遺産をサテライトオフィスとして活用する」などの分かりやすい活動も必要である（地方の市街地では類例も多い）。その際には、オフィスを一定期間借用し、また電話や最低限のPCを使う等の環境および運転資金が必要である。その際、運営にはメンバーの中でも比較的時間のある学生チームや高齢チームが中核となるだろう。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。

また、その際に必要なものは何ですか。

本団体のメンバーが多彩で、かつ他団体との連絡も採っていることから、今後は、上記の具体的・実践的な活動の種を植えるべく活動したい。その一方で、これまでどおり「広く浅い」マップづくりは、その内容充実に向けて継続していく必要がある。WEBなども活用し、円滑に情報交換できるよう体制を整えていくことで、持続的な活動を行い、仙台南内にもまだまだ大切な場所が残っていることを訴えていきたい。

これらを総合的に考えると、本団体としての「情報資産」をどうストックしていくか、は中長期的に重要である。内容上本団体は、圧力市民団体ではなく共同研究体に近い組織であり、必要な書籍の購入、他都市への事例調査、個別まち遺産の実測調査、これにかかる道具類の整備等が望まれる。現段階ではメンバーの持ち出しで賄っているが、活動が本格化していく際には整備していく必要がでてくるだろう。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

### 収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	200,000	200,000	
会費	40,000	35,500	
報告書売り上げ	6,000	10,400	
マップ売り上げ	4,000	6,600	
合計	250,000	252,500	

### 支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
調査旅費	20,000	1,750	
調査物品・消耗品	20,000	19,094	
会場費	10,000	7,070	
広報チラシ作製	100,000	82,840	
郵送費	10,000	9,980	
マップ印刷	20,000	50,000	
ホームページ制作費	50,000	45,000	
報告書	20,000	36,766	
合計	250,000	252,500	

#### 寄付をいただいた方へのメッセージをどうぞ

当団体は発足したばかりでほとんど資金もない状態でしたが、貴助成金のお陰を持ちまして活動を進めることができ大変感謝をしております。手探りではじめた活動ではありますが、本事業の中で実施した2度のワークショップでは大勢の市民に参加していただき好評を得ることができました。歴史的資源(まち遺産)の収集はまだ充分とは言えないものの、384件ものまち遺産を収集することができリストおよびマップとしてまとめることができました。今回の事業成果を基に、今後は益々活動を発展させたいと考えております。